

新未来「創造」

とくしま行動計画

新未来「創造」 とくしま行動計画



平成27年度版



徳島県

平成27年度版
徳島県



「新未来『創造』とくしま行動計画」の策定 (平成27年度版行動計画)にあたり

「ピンチをチャンスに」。今やお家芸となったこのフレーズとともに、顕在化する様々な課題に真正面から取り組み、全国トップクラスの光ブロードバンド環境が牽引する「情報通信関連産業」や「サテライトオフィス」の誘致、南海トラフ巨大地震を迎え撃つ「とくしまゼロ作戦」の加速化、さらには本四高速道路への「全国共通料金制度」の導入をはじめとする「陸・海・空」の高速交通体系の飛躍的な進化など、県内各界各層の皆様と共に県勢発展の礎を築いて参りました。

今、日本は、「人口減少」においてかつて経験したことのない局面を迎えており、国を挙げた「東京一極集中の是正」と「地方創生」の取組みが加速しています。この度の知事選挙においても、県民の皆様から、徳島そして日本の明るい未来の実現を願う数多くのお声をいただきました。

そこで、「地方創生」をリードする「課題解決先進県・徳島」として、「課題解決の処方箋」を発信し、新しい「価値観」を創造する「オンリーワン徳島」を実現することにより、県民の皆様のご期待にしっかりとお応えできるよう、今後4箇年の県政運営指針となる「新未来『創造』とくしま行動計画」を策定いたしました。

この計画は、県が進める政策の基本的な方向性をとりまとめたものであり、2060年頃の「目指すべき将来像」を描いた「長期ビジョン編」、手の届く「10年程度先」を見据えた「中期プラン編」、今後4年間で取り組むべき重点施策を示した「行動計画編」の三層構造としており、地域の現状を踏まえつつ、「未来」、「世界」へと視野を広げ、県民一人ひとりに光が当たる取組みを盛り込んでいます。

また、計画の策定にあたっては、「宝の島・徳島『わくわくトーク』」の開催やSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などを通じ、次代を担う若い世代の方々をはじめ、多くの県民の皆様から幅広くご意見・ご提言をいただきました。

「地方創生の旗手・徳島」として、「地方創生のモデルひいては日本創生の礎を徳島から築いていくんだ」との誇りを持ち、県民目線・現場主義に立って、この計画を着実に推進することにより、本県の取組みを一段と高い次元へ進化させ、全国に先駆けた「一歩先の未来」を県民の皆様とともに歩んで参ります。

平成27年7月

徳島県知事

目 次

	頁
I 計画の基本的な事項	
第1 計画策定の趣旨 -----	1
第2 計画の基本理念 -----	1
第3 計画の性格 -----	1
第4 計画の構成 -----	2
II 長期ビジョン編（2060年頃の目指すべき将来像）	
第1 時代の潮流（世界～日本～徳島） -----	3
（1）世界の人口爆発と人口減少・超高齢社会到来の日本 -----	3
（2）地球環境問題の深刻化と巨大自然災害 -----	6
（3）科学技術が切り拓く人類の未来 -----	7
（4）加速するグローバル化と課題解決先進国“日本” -----	7
（5）“新しい価値”を創造していく徳島 -----	9
第2 将来ビジョン（2060年頃の姿） -----	11
（1）世界へ発信「笑顔の TOKUSHIMA」 -----	11
（2）世界に誇る「強靱（きょうじん）な TOKUSHIMA」 -----	12
（3）世界とつながる「創造の TOKUSHIMA」 -----	14
III 中期プラン編（手の届く未来である「10年程度先」を見据えた「近未来の成長戦略」）	
第1 目指すべき姿（10年程度先）と施策の方向性 -----	17
Ⅰ みんなが輝くとくしまの創造 -----	18
Ⅱ 安全安心とくしまの創造 -----	31
Ⅲ 環境先進とくしまの創造 -----	38
Ⅳ 経済好循環とくしまの創造 -----	45
Ⅴ 世界へはばたくとくしまの創造 -----	54
IV 行動計画編（当面取り組むべき重点施策）	
第1 基本目標と重点戦略 -----	67
第2 工程表（基本目標ごとの主な施策と目標） -----	68
基本目標1「ふるさと回帰・加速とくしま」の実現 -----	70
基本目標2「経済・好循環とくしま」の実現 -----	99
基本目標3「安全安心・強靱とくしま」の実現 -----	118
基本目標4「環境首都・新次元とくしま」の実現 -----	145
基本目標5「みんなが元気・輝きとくしま」の実現 -----	162
基本目標6「まなび・成長とくしま」の実現 -----	186
基本目標7「大胆素敵・躍動とくしま」の実現 -----	202
第3 計画の進行管理と見直し -----	218
【参考資料編】	
1 徳島県の現状と課題（データで見る徳島） -----	220
2 県民意識とニーズ -----	241
（1）徳島の将来に対する主な意見 -----	241
（2）若者の視点 -----	241
【用語解説】 -----	247

■凡例（工程表に記載中の部局名）■

<危機>	危機管理部
<政策>	政策創造部
<経営>	経営戦略部
<県民>	県民環境部
<保健>	保健福祉部
<商工>	商工労働観光部
<農林>	農林水産部
<県土>	県土整備部
<監察>	監察局
<南部>	南部総合県民局
<西部>	西部総合県民局
<企業>	企業局
<病院>	病院局
<教育>	教育委員会
<警察>	警察本部

I 計画の基本的な事項

第1 計画策定の趣旨

■徳島県では、平成23年度から平成26年度までの4年間の県政運営指針として、「オンリーワン徳島」の実現に向け、平成23年7月に「いけるよ！徳島・行動計画」を策定しました。

■この間、東日本大震災を教訓に、切迫する南海トラフの巨大地震を迎え撃つ「とくしまゼロ作戦^{*}」の加速化や、県民医療の「最後の砦」となる県立3病院の改築をはじめとした安全安心の確保、全国屈指の「光ブロードバンド^{*}環境」による情報通信関連産業の集積など、本県の強みを活かした経済成長戦略の展開、あるいは、本四高速道路への「全国共通料金^{*}制度の導入」の実現など、計画に盛り込んだ各種施策の推進に全力で取り組んできました。

■人口減少や超高齢化問題に直面する中、「オンリーワン徳島」の実現に向けて進めてきたこれらの実績をベースとして、徳島ならではの取組みに更に磨きをかけながら、将来の本県が目指すべき姿と、その実現に向けてこれから4年間で取り組む施策を示す「**新未来『創造』とくしま行動計画**」を策定するものです。

第2 計画の基本理念

■基本理念は、「『**一步先の未来**』を具現化するオンリーワン徳島の実現」です。

■「可能性の宝庫・徳島」の魅力に、あらゆる分野で更に磨きをかけ、本県の取組みをもう一段高い次元へ進化させるとともに、「課題解決」の処方箋を徳島から全国に発信し、「地方創生」ひいては「日本創生」を実現する「とくしま回帰」の流れを創出することにより、全国に先駆けた「一步先の未来」を県民の皆様とともに歩み、世界に“新しい価値観”を発信する「オンリーワン徳島づくり」を進めます。

第3 計画の性格

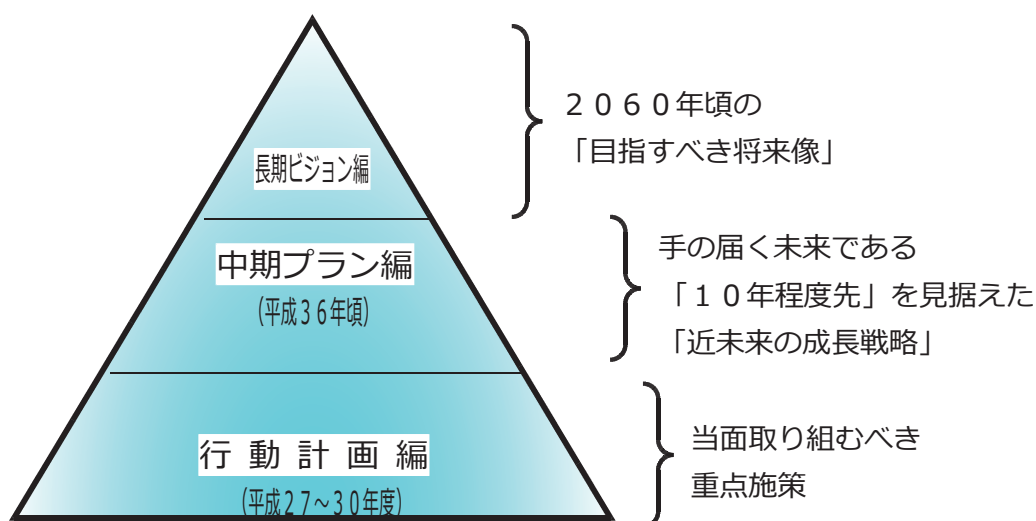
■「**新未来『創造』とくしま行動計画**」は、県政運営指針として、県が進める政策の基本的な方向をまとめたものであり、「徳島県版・総合戦略^{*}」をはじめとする個々の計画に対し、最上位の総合的な計画として、毎年度の予算編成や事業の立案などの基本となるものです。

第4 計画の構成

■ 「新未来『創造』とくしま行動計画」では、

- ・本格的な人口減少社会の到来やグローバル化の進展など、本県を取り巻く環境が大きく変化する中、本県の現状や今後の課題を的確に把握したうえで、「徳島の目指すべき将来像」を県民と共有し、その実現に向けた道筋を示す「**長期ビジョン編**」
- ・「長期ビジョン編」を踏まえ、手の届く未来である「10年程度先」を見据えた「近未来の成長戦略」である「**中期プラン編**」
- ・「中期プラン編」を達成するために当面取り組むべき重点施策を、具体的な数値目標や達成年度などの工程で明示した「**行動計画編**」

の**三層構造**からなり、今後の県政を計画的に推進していくための基本となります。



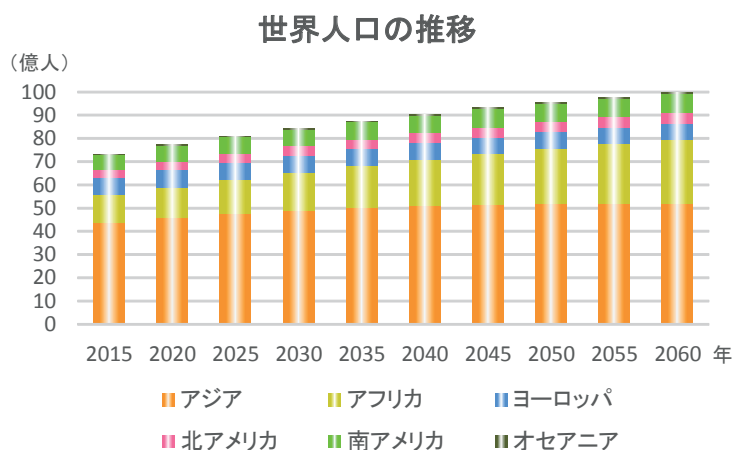
Ⅱ 長期ビジョン編（2060年頃の目指すべき将来像）

第1 時代の潮流（世界～日本～徳島）

（1）世界の人口爆発と人口減少・超高齢社会到来の日本

世界人口は2060年には99億人を突破し、100億人到達目前に

世界の人口は、アジア・アフリカを中心に爆発的に増加し、2015年の約73.2億人から、2025年に約80.8億人、2050年には約95.5億人、また2060年には100億人目前の約99.6億人にまで達すると予測されており、新興国の経済成長や異常気象ともあいまって、食料・水・エネルギー需要の高まりや、地球環境への影響が懸念されています。



（出典）United Nations “World Population Prospects: The 2012 Revision”

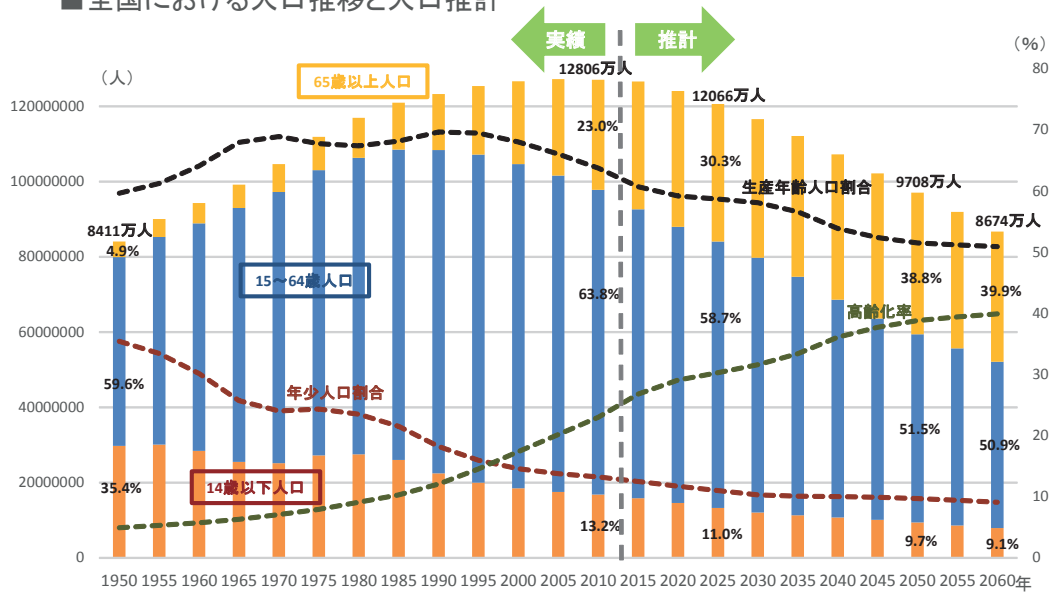
我が国人口は1億人を割り込み、高齢化率は約4割に

我が国は世界に例を見ない速さで人口減少と高齢化が進み、人口は2015年の約1億2千7百万人から、2025年に約1億2千百万人、2050年には約9千7百万人、また2060年には、約8千7百万人にまで減少し、1億人を割り込むことが予測されています。

年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）が減少の一途をたどる一方で、老年人口（65歳以上）は、第二次ベビーブーム世代が老年人口に入った後の2042年に約3千9百万人でピークを迎え、その後は一貫して減少に転じ、2050年に約3千8百万人（38.8%）、2060年には約3千5百万人（39.9%）と、約4割が65歳以上となる見込みです。

政府の「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」（平成26年12月27日閣議決定）では、中長期展望として、「2060年に1億人程度の人口を維持すること」が示されています。

■全国における人口推移と人口推計

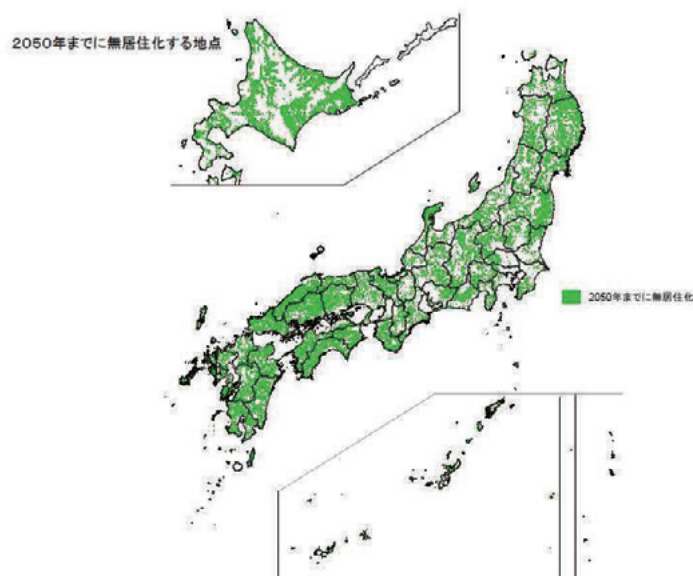


(出典)総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口(全国、平成24年1月推計)」
 ※端数処理のため合計が合わないことがある。

人口の地域的偏在が加速

国土交通省「国土のグランドデザイン2050 ～対流促進型国土の形成～」(2014年7月4日公表、以下「国土のグランドデザイン2050」という。)によると、急激な人口減少によって人口の地域的偏在が加速し、国土の約6割の地域で人口が半減以下となり、うち3分の1(約2割)の地域では、人が住まなくなると予測しています。

民間研究機関「日本創成会議・人口減少問題検討分科会」(以下「日本創成会議」という。)の推計(2014年5月公表)では、2040年には全国896市区町村(49.8%)が「消滅可能性都市(若年女性(20~39歳)の人口が5割以上減少)」に該当し、うち、523市区町村(29.1%)は人口が1万人未満となり、消滅の可能性が更に高いとしています。



(出典)国土交通省「国土のグランドデザイン2050(1kmメッシュで見る居住地域)」

全国を上回る速度で進む徳島の人口減少・高齢化

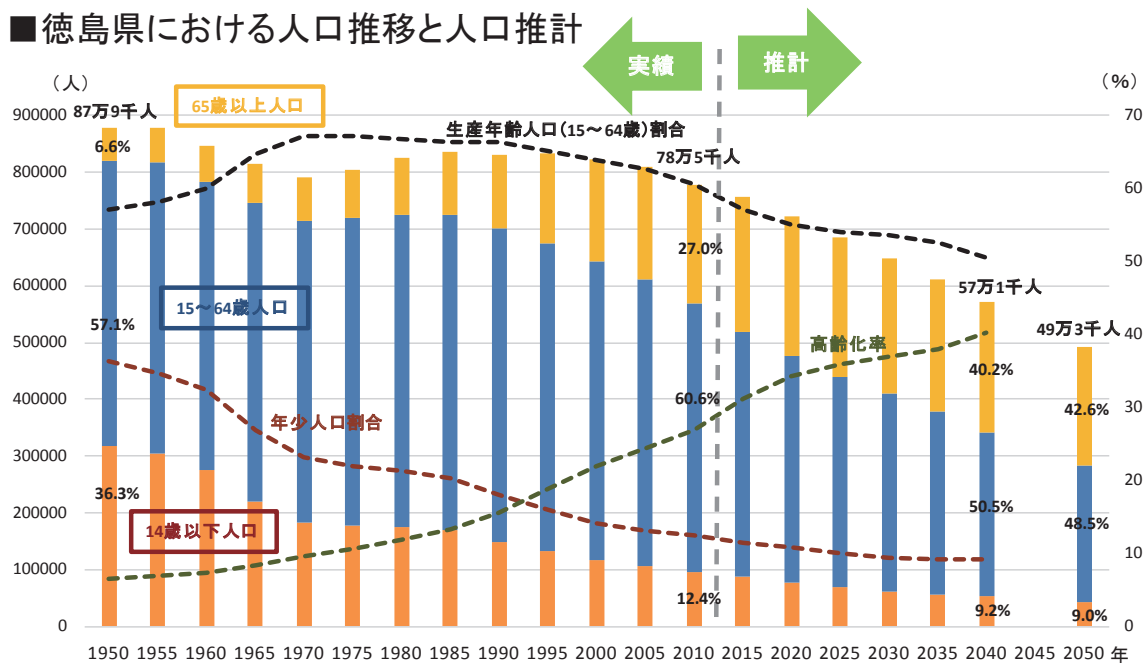
本県では、全国を上回る速度で人口減少・高齢化が進み、2015年の約76万人が、2025年に約69万人、2040年には約57万人にまで減少すると予測されており、2050年には50万人を割り込むとの試算（493千人：「国土のグランドデザイン2050」）もあります。

老年人口（65歳以上）は、2015年の約24万人（31.3%）が、2025年に約25万人（35.8%）、2040年には約23万人（40.2%）となる見込みです。

年少人口（0～14歳）は減少が続き、2015年の約9万人（11.6%）が、2025年には約7万人（10.1%）、2040年には約5万人（9.2%）にまで減少します。

生産年齢人口（15～64歳）も同様に減少を続け、2015年の約43万人（57.2%）が、2025年には約37万人（50.5%）、2040年には約29万人（50.5%）となる見込みです。

■徳島県における人口推移と人口推計



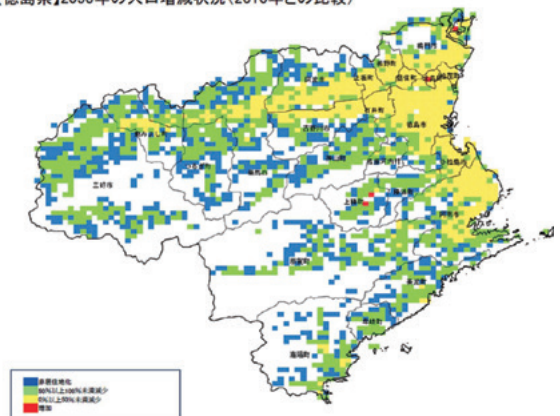
(出典) 総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」、2050年値は、国土交通省「国土のグランドデザイン2050」(結果をもとに徳島県が一部再集計) ※端数処理のため合計が合わないことがある。

全県的に厳しさを増す過疎化の進行

「国土のグランドデザイン2050」によると、本県でも人口の地域的偏在が加速し、約7割の地域で人口が半減以下となり、うち5分の2（約3割）の地域では、人が住まなくなると予測しています。

また、「日本創成会議」の推計でも、2040年に約7割に当たる17市町村について「消滅可能性」があるとされ、現状のまま推移すれば、本県においても、自治体や地域社会の消滅が現実味を帯びるといった厳しい状況が懸念されます。

【徳島県】2050年の人口増減状況(2010年との比較)



(出典) 国土交通省「国土のグランドデザイン2050」

(2) 地球環境問題の深刻化と巨大自然災害

地球環境問題の深刻化

人類に生活の利便性や豊かさをもたらした世界規模での工業化の進展は、一方で、エネルギー消費の増大による地球温暖化や資源の枯渇、生物多様性の減少といった深刻な地球環境問題を引き起こしています。

とりわけ、地球温暖化に伴う気候変動の影響により、豪雨や猛暑などの異常気象の頻発といった自然災害リスクの増大が懸念されるほか、水不足や農作物の収量減少、海面上昇による居住地域の減少や熱中症や感染症の増加など、人間社会にまで幅広く影響を及ぼすとの予測もあり、温室効果ガスの削減は、人類共通の喫緊の課題となっています。

確実に迫り来る巨大地震と高まる自然災害リスク

我が国においては、今後30年以内に、首都直下地震（M7クラス）や南海トラフ巨大地震（M8～9クラス）が70%程度の確率で発生することが公表されています。

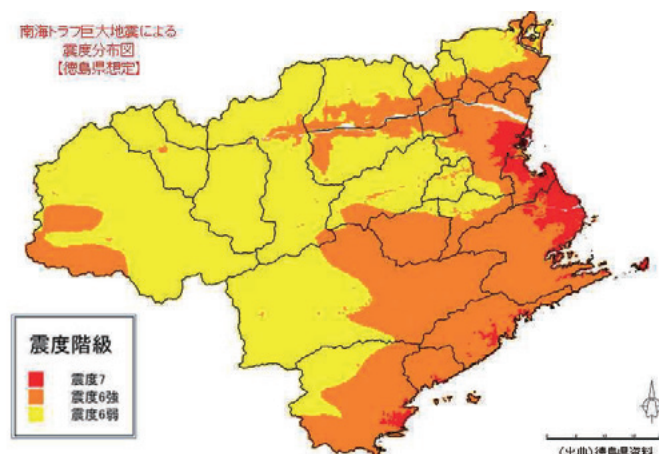
また、近年、我が国でも、異常気象や大きな自然災害が頻発していますが、今世紀末頃には、20世紀末頃と比べて年平均気温が2.5～3.5℃上昇し、短時間に降る大雨が増加するといった予測（気象庁「異常気象レポート2014」〈平成27年3月20日公表〉）もあり、今後、自然災害の危険性が更に高まることが危惧されます。

こうした確実に迫り来る巨大災害や、高まる自然災害リスクに備えるべく、我が国では、東日本大震災の教訓も踏まえ、国土の全域にわたる強靱な国づくりを推進するとともに、地球温暖化対策として、自然エネルギー活用の着実な拡大や森林吸収源対策などに取り組んでいくこととしています。

本県は南海トラフ巨大地震・自然災害への備えを着実に推進

南海トラフ巨大地震の発生確率が高まる中、本県では東日本大震災の教訓を踏まえた「震災時死者ゼロ」の実現を目指した取組みを加速させています。

また、台風や豪雨に伴う風水害などの自然災害が懸念されることから、本県の強みであり、災害に強い特性を有する自然エネルギーを活用した、防災拠点・避難所の機能強化といった災害に強いまちづくりや、地球温暖化対策や水資源の確保にも寄与する公有林化の推進などにも取り組んでいます。



(3) 科学技術が切り拓く人類の未来

大変革期を支える科学技術の進歩

科学技術の進歩は、現代文明の発展や人類の活動領域の拡大をもたらし、私たちの日常生活を便利で豊かにしました。とりわけ、情報通信技術（以下「ICT」という。）の進展は目覚ましく、世界全体に急速に浸透し、社会や生活のあり方に大きな変化をもたらしています。

今後、ICTをはじめ、生命科学技術やロボット技術、環境・エネルギー技術など科学技術の幅広い分野において、社会システムや生活様式を一変させる技術革新が進展すると考えられており、その成果を人類共通の課題解決や世界全体の持続的な発展のため、最大限活用していくことが期待されています。

“世界で最もイノベーションに適した国”日本

我が国は、現下の喫緊の課題である経済再生のほか、急速に進む人口減少・少子高齢化や地球環境問題など山積する課題を克服し、将来にわたる持続的な経済成長や、国民が豊かさや安全・安心を実感できる社会などの実現に向け、科学技術イノベーション政策を強力に推進し、「世界で最もイノベーションに適した国」を目指すこととしています。

資源に乏しい我が国は、科学技術とその担い手である優れた人材が最大の資源であり、優れた人材の育成・確保などにより培われる“世界最高水準の技術力”を発揮して、国際社会に貢献していく必要があります。

「徳島ならではの」科学技術による課題解決

本県では、人口減少や災害への備えなど、直面する様々な課題を解決し、徳島の未来を切り拓いていくため、県民総ぐるみで科学技術の振興を図っていくこととしており、これまで育んできた全国屈指の光ブロードバンド環境を活かしたサテライトオフィスや、“21世紀の光源”LED（発光ダイオード）など、強みとなる科学技術の力を最大限に活用して、徳島から“人類の未来の創造”に貢献していくことが期待されます。

(4) 加速するグローバル化と課題解決先進国“日本”

あらゆる局面で“地球規模”の動きが加速

今後、ICTの劇的な進歩などにより、グローバル化の流れが一段と加速し、ヒト・モノ・カネ・情報の流動性が一層高まり、あらゆる面において、国際的な相互依存が深まると同時に、国家・都市間における世界規模での競争が激化する見通しです。

また、人口の増加や市場拡大などに伴う経済的恩恵の享受が期待できる一方で、「リーマン・ショック」のように、一国の経済危機が瞬時に世界中に伝播するといった負の側面を併せ持つこととなります。

中国やインドといった新興国の台頭や、多国籍企業やN G Oなど非国家主体の存在感の高まりによる国際的な力関係の変動に伴い、世界の勢力図が大きく塗り替わる可能性があり、国際社会における合意形成が困難となっています。

アジアが世界経済を牽引

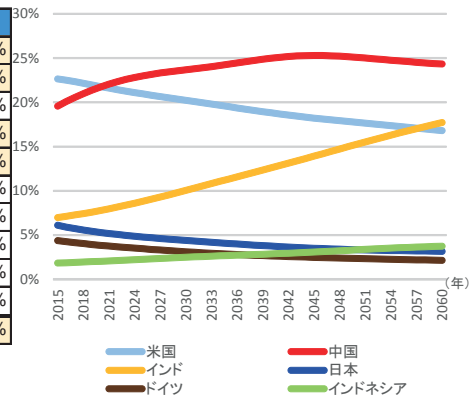
世界経済は、中国やインドをはじめとするアジアの新興国が牽引し、現在のような成長を持続することができれば、2060年にはアジアが世界のG D Pの50%以上を占めるといった予測がある反面、全世界的な高齢化の進行により経済成長率は鈍化するともいわれています。とりわけ、世界第二位の経済大国となった中国の高成長は、生産年齢人口の増加によるところが大きく、今後、高齢化の進行に伴い経済成長が減速するとの指摘もあり、我が国や本県の将来にも大きな影響を及ぼすと考えられる中国の今後の政治的・経済的動向に十分留意していく必要があります。

世界経済(GDP)に占める
上位10か国の割合

	2015年		2050年		2060年	
1	米国	22.7%	中国	25.1%	中国	24.3%
2	中国	19.6%	米国	17.7%	インド	17.7%
3	インド	7.0%	インド	15.3%	米国	16.8%
4	日本	6.1%	日本	3.3%	インドネシア	3.7%
5	ドイツ	4.4%	インドネシア	3.3%	日本	3.2%
6	ロシア	3.8%	ブラジル	2.8%	メキシコ	3.0%
7	英国	3.3%	メキシコ	2.8%	ブラジル	2.8%
8	ブラジル	3.2%	英国	2.8%	ロシア	2.7%
9	フランス	3.0%	ロシア	2.7%	英国	2.7%
10	メキシコ	2.5%	ドイツ	2.4%	ドイツ	2.2%
	アジア	37.0%	アジア	49.0%	アジア	50.8%

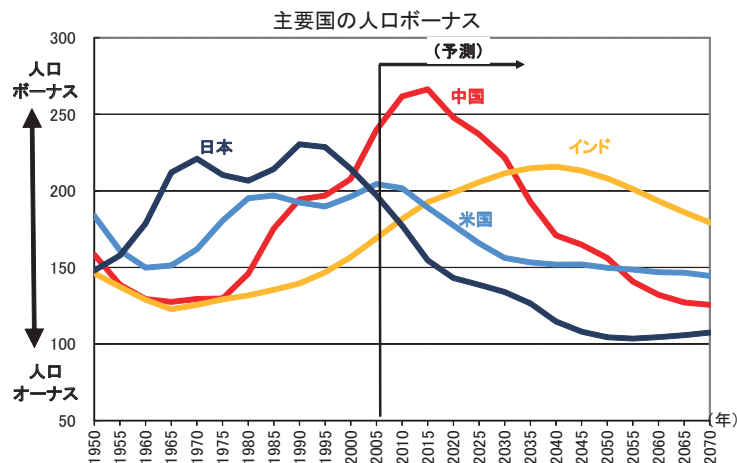
※アジアは次の5か国の計：日本、韓国、中国、インド、インドネシア

世界経済(GDP)に占める
各国の割合の推移



(出典)OECD“GDP:長期ベース予測(Economic Outlook No.95,2014年5月)”

【参考】四国大学経営情報学部 准教授 牧田修治氏 提供資料



(出典)United Nations,“World Population Prospect 2010”

(注)グラフの縦軸は、イメージのしやすさを考慮し、従属人口指数(=年少人口+老年人口)/生産年齢人口の逆数を使用。 ※人口構成の変化がプラスに作用する状態を「人口ボーナス」という。

課題解決先進国として存在感を示す日本

国際社会における我が国の存在感は、新興国の台頭により相対的に低下し、多極化する世界で埋没するおそれも指摘されていますが、人口減少・超高齢化や地球環境問題への対応、新産業創出といった地球規模の課題を我が国が世界に先駆けて解決し、持続可能な社会モデルを世界へ提示していくことにより、課題解決先進国として確固たる存在感を示していくことが重要です。

2020年開催の「東京オリンピック・パラリンピック」は、変革を遂げた我が国の姿を国際社会にアピールする絶好の機会であり、あらゆる取組みを加速させていく必要があります。

徳島発の世界標準を目指した取組み

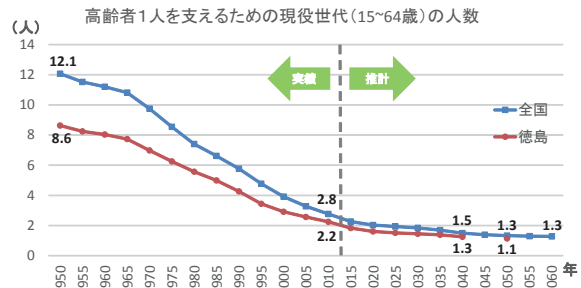
グローバル化の一層の進展に伴い、世界規模での競争が激化する中、本県では、基幹産業である農林水産業を将来にわたり魅力ある産業として発展させるため、高い品質を誇る農林水産物の海外への販路開拓といった輸出強化のほか、国際的な視点を備え世界の様々な分野で活躍する若者をはじめ、本県の未来を担う人材育成に取り組んでいます。

(5) “新しい価値”を創造していく徳島

時代が求める新たな社会経済システム

我が国の財政は、近年、公債依存度が40%台で推移し、国・地方合わせた長期債務残高では2014年度末に初めて1,000兆円を超え1,010兆円に達する見込みであり、極めて深刻な状況にあります。

我が国はこうした厳しい財政制約のもと、人口減少・超高齢社会を迎え、ニーズの多様化や地域コミュニティ機能の弱体化などの課題に対し、国民の“幸福の最大化”を図っていくためには、中央集権体制、東京一極集中を打破し、心の豊かさやゆとりを重視した、“新しい価値観”に基づく発想の転換により、過去の延長線上にはない社会経済システムを創出していく必要があります。



(出典)総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成25年3月推計)」、国土交通省「国土のグランドデザイン2050」(結果をもとに徳島県が一部再集計)
※端数処理のため合計が合わないことがある。

こうした中、今後、地方が社会経済情勢の変化に対応するためには、地方分権を一層推進し、住民の意思が直接反映され、地域が個性と多様性を活かした自立的発展を遂げる「真の分権型社会」の実現が不可欠です。

徳島から“新しい価値”を世界に発信

本県が激変する社会経済情勢や多様化する県民ニーズに的確に対応し、夢や希望に満ちあふれた、活力ある自立した地域として成長していくためには、“v s 東京^{*}”を旗印に、県民すべてが“徳島が世界をリードしていく”との気概を共有しながら、人口減少を正面から受け止め、潤いのある豊かな地域社会の形成や個性豊かで多様な人財の確保、さらには、魅力ある多様な産業の創出といった“TOKUSHIMA創生”に積極果敢に挑戦し、そこから得られる達成感・幸福感を“新たな価値”として世界に発信していくことが求められています。

徳島は宣言する
VS 東京

第2 将来ビジョン（2060年頃の姿）

（1）世界へ発信「笑顔のTOKUSHIMA」

一人ひとりが夢や希望を持ち、それを実現できる「ひと」を創生する、
県民誰もが「笑顔」あふれる社会

【子どもたちの笑顔が地域にあふれている】

- ・我が国全体に「子どもは宝」という意識が浸透し、若い世代が安心して働き、希望どおりに結婚、出産及び子育てができる社会経済環境を実現しています。
- ・テレワーク^{*}などの柔軟で多様な働き方や、多彩な幼児教育・保育メニューの選択、経験豊富な高齢者による育児支援など、地域ぐるみの子育て応援が充実しています。
- ・子どもたちは、家庭や地域、学校で大切に生まれ、豊かな人間性や社会性を身につけて健やかに成長し、元気な子どもたちの笑顔があふれています。

【未来を創造するたくましい若者が社会へ巣立っている】

- ・学校、家庭及び地域の連携や特色ある教育により、生きる力を支える学力や個性はもとより、多様な価値観への理解や、国際的視野を身につけた多くの若者が、「ふるさと徳島」への誇りを抱き、世界の舞台で活躍しています。
- ・ICTの活用などにより、多様な学習の機会や学びの環境が整えられており、障がいのある子どもたちは、希望する場所できめ細やかな教育を受けながら、個性や能力を最大限に伸ばしています。
- ・英語教育や留学、異文化体験によるグローバル人材の育成や、地域や産業界と連携した職場体験活動などのキャリア教育が、子どもの発達段階に応じて体系的に行われ、グローバルな視点や勤労観・職業観を身につけながら、未来を創造するたくましい若者が社会へ巣立っています。

【一人ひとりが自立しながら支え合い地域でつながっている】

- ・障がい者や高齢者は、買い物支援や介護、見守りといった福祉サービスや地域ぐるみでの支援を受けながら、住み慣れた地域で安心して自分らしいライフスタイルを送っています。
- ・元気な高齢者や障がい者の多くは、ソーシャルビジネスの起業や「障がい者マイスター^{*}」として活躍するなど、地域社会の担い手となっています。
- ・地域全体に世界最先端のICTインフラ環境が整備されており、ビッグデータ^{*}などを有効活用した質の高い健康・医療・介護サービスや、社会人の学び直しニーズに対応した学習機会等の充実、SNSによる社会参加、テレワークといった柔軟で多様な働き方が広がっています。
- ・ワーク・ライフ・バランスが図られ、様々な分野での女性の活躍やキャリアアップも当たり前になっており、男女が互いに尊重し能力や個性を發揮しながら充実した人生を送っています。
- ・地域住民一人ひとりが、年齢や性別、国籍、障がいの有無等に関わらず、自立しながら支え合い、地域の絆が強まり、つながることで、ぬくもりのある地域社会が形成されています。

【健康寿命が延び多様なライフスタイルが実現されている】

- ・医療技術の進歩により、世界的な課題であった糖尿病を克服し、世界レベルの“研究開発臨床拠点 TOKUSHIMA”として国内外から製薬企業や研究開発機関が集積し、新たな研究成果を基に先進的な医療・サービスにつなげており、世界の健康長寿にも貢献しています。
- ・医師・診療科の偏在解消や広域救急医療体制の更なる充実などにより、県民誰もが、いつでも、どこでも高度な医療サービスを受けられる「安心の医療」が実現しています。
- ・幼少期からの食育の推進により、バランスのとれた食生活や、適度な運動や健康づくりを楽しむ習慣が浸透し、生涯にわたっていきいきと生活しています。
- ・健康寿命が延び、高齢者の多くが自らの経験や知識を活かした社会貢献活動等を行うなど、地域社会を支えながら充実した日々を過ごすといった多様なライフスタイルが実現しています。

【地域・世代を超えて人の和が広がっている】

- ・「共助・共生」の意識が浸透し、福祉や教育、環境保全、まちづくりなど、生活を取り巻くあらゆる領域で、住民やNPO、企業をはじめとする多様な主体による活動が地域を支えています。
- ・住民が日常生活で必要とするサービスは、ICT等を活用したソーシャルビジネスを介して提供されており、住民主体の地域密着型ビジネスとしても成り立っています。
- ・社会貢献などによる「心の豊かさ」を求める考え方が浸透し、社会や人とのつながりを求める若者をはじめ多様な主体が様々な「自立と連携」を図りながら、地域で課題解決が困難なものは人的ネットワークなどにより克服し、持続可能で個性豊かな魅力ある地域社会を実現しており、地域・世代を超えて“人の和”が広がっています。

(2) 世界に誇る「強靱（きょうじん）なTOKUSHIMA」

豊かな自然に生まれつつ、その脅威から命を守る「まち」を創生する、安全安心に抱かれた「強靱」な社会

【災害に強くしなやかな県土が広がっている】

- ・巨大災害を迎え撃ち、「助かる命」を助けるため、ハード・ソフト両面から県土の強靱化が図られています。
- ・公共施設や民間建築物の耐震化をはじめ、避難施設や避難路、緊急輸送道路の整備といった事前防災・減災対策や、集中豪雨や巨大化した台風の到来に備えた河川改修なども進んでおり、災害に強くしなやかな県土がひろがっています。

【自然の脅威から命を守る地域の絆が結ばれている】

- ・県内全域において、自助・共助・公助の連携や、自主防災組織による取組みが行われるなど、地域ぐるみの防災力が向上しています。
- ・幼少期からの防災教育等により、県民一人ひとりの防災意識が高まっており、地域防災リーダーを中心に事前復興まちづくり計画の策定や防災訓練が行われるなど、自然の脅威から命を守る地域の絆が結ばれています。

【自然の恵みを循環させるスマートな社会が創り出されている】

- ・「心の豊かさ」やゆとりのある生活が重視され、住民一人ひとりから社会全体にいたるまで地球環境や資源の有限性を意識しており、環境にやさしいライフスタイルや社会経済システムを選択しています。
- ・エコカーなど環境に配慮した製品・サービスの購入や、モノの所有から必要なときに必要な量だけ利用する共有（シェア）へと意識が向上しています。
- ・「燃料電池自動車（FCV）」の普及に加え、太陽光をはじめ自然エネルギーが主要なエネルギー源となっており、シート状太陽光パネルの農業への導入や、豊富な森林資源を活用した木質バイオマスのエネルギー利用、浮体式洋上風力発電と漁業との融合による地場産業創出など、あらゆる領域における「エネルギーの地産地消」の普及により、自然の恵みを循環させる“スマートな社会”が創り出されており、成果を幅広く発信することにより地球環境の改善にも貢献しています。

【豊かな自然と潤いあるふるさとの風景が守られている】

- ・適切な污水处理などにより清潔で快適な生活環境が確保され、豊かな水辺空間を求めて子どもから高齢者まで多くの人々が訪れ、楽しんでいます。
- ・公有林化が進んだ森林は、間伐や広葉樹林化により多種多様な生物が生息する豊かな森へと生まれ変わっており水資源の確保や土砂災害の防止のほか、カーボン・オフセット[※]を活用した温暖化対策の取組みを進めることなどにより、県民生活に様々な恩恵をもたらしています。
- ・ブナ林などの貴重な自然林が大切に守られ、ツキノワグマといった希少動物の生息エリアが拡大するとともに、農林水産業被害を食い止める野生鳥獣の適正管理が行われ、豊かで暮らしやすい農山村になっているなど、本県が誇る自然環境が将来世代へと大切に引き継がれています。

【安全・安心で豊かな暮らしと食文化が息づいている】

- ・農山漁村や中山間地域では、自然環境に配慮した美しい景観を活かした地域づくりが行われており、豊かな自然と潤いあるふるさとの風景が守られています。
- ・安全・安心な農産物など県産食品の供給や、食品の産地偽装防止対策の強化、幼少期からの食育、地産地消の浸透により、安全で安心な食生活や豊かな食文化が実現しています。
- ・「くらしのサポーター」や「消費生活コーディネーター」をはじめ、地域の様々な方々が連携する消費者被害防止ネットワークにより消費者被害を未然に防ぐとともに、高齢者などの生活弱者にやさしい買物支援システムの導入などにより、誰にとっても安全・安心で充実した消費生活が実現しています。
- ・交通安全運動のほか、特殊詐欺やDV、ストーカー、薬物乱用といった日常生活を脅かす犯罪等についても、地域住民と警察・行政等が一体となった防犯ネットワークが機能するなど、安全・安心で豊かな暮らしが息づいています。

(3) 世界とつながる「創造のTOKUSHIMA」

国内外から、魅力的な「まち」に意欲的な「ひと」を呼び込み、
未来を切り拓くイノベーションの渦を巻き起こす「創造」に満ちた社会

【地域の強みを活かした新たな成長ビジネスが産み出されている】

- ・世界最先端のイノベーション創出環境を求めて、多くのベンチャー企業や研究開発機関が集まっており、ICTや環境・エネルギー、医療・健康分野などを中心に、多様な産業・人材集積を活かした新産業・新サービスの創出や積極的なグローバル展開が図られています。
- ・“21世紀の光源”LEDや“ジャパン・ブルー”阿波藍を使用した製品や、優れた機能・デザインが人気を集めている木工家具など、「徳島のものづくり」をはじめ産業の粋を集めた“MADE IN TOKUSHIMA”がクールで高品質というイメージを確立しており、世界中で愛されています。
- ・「安全・安心」、「高品質」、「おいしさ」を誇る徳島の農林水産物が世界でも認められ、海外輸出量が飛躍的に増大するとともに、企業等による6次産業化や異業種連携など、多様な主体・体制の拡充により、世界の和食ブームを支えています。
- ・豊かで良質な森林資源と優れた木材加工技術を背景に、県産材製品の販路が国内はもとより海外まで広がったことにより、県産材の生産量・消費量は飛躍的に増加し、川上から川下まで森林資源を活かした循環型経済システムが確立されています。
- ・ICTやロボット技術の導入・活用により、あらゆる産業分野・領域で生産性・品質が飛躍的に向上するとともに、地域の強みを活かした新たな成長ビジネスを産み出されており、徳島経済は持続的な発展を遂げています。

【世界をリードするクリエイティブな人財が集う場がある】

- ・世界最高水準のICT利活用社会を実現した徳島は、多様な働き方や地域ぐるみのサポート、豊かな自然を満喫できる快適な居住環境を備えた“世界のクリエイティブセンターTOKUSHIMA”として広く知られ、創作活動拠点を求め、世界をリードする多くのクリエイターやデザイナーといったクリエイティブな人財が集い、徳島の若者たちとも刺激し合いながら、意欲的に「新たな価値」の創作・発信を行っており、クリエイティブ産業が本県の主要産業に成長しています。
- ・誰もが自分の価値観やニーズに合った多様な働き方を選択でき、多くの人々が、希望するワークスタイルを目指してスキルアップに励みながら自己実現を果たしています。
- ・ICTの活用などにより、職業訓練を含む教育を生涯にわたり何度でも自由に受けることができます。

【世界に誇る伝統が世代を超えて受け継がれている】

- ・地域のキーパーソンが中心となり、代々受け継いできた地域資源をベースに多様な人材や異文化とのコラボレーション・連携を試み、ソーシャルビジネス^{*}などにより6次産業化商品の販売や観光ビジネス等に取り組んでいます。

- ・二地域居住者や修学旅行生はもとより、「徳島ならではの」の魅力を求め、世界中から多くの人々が訪れ、定住者も増加するなど、活気に満ちあふれています。
- ・子どもから高齢者まで住民すべてにとって、利便性、快適性に配慮した地域づくりが進んでおり、日常生活に必要な買物や移動手段などが確保された恵まれた自然環境の中で、豊かな生活を送っています。
- ・農山漁村では、地元住民を中心に創意工夫を凝らしながら、“日本の原風景”ともいべき豊かな自然や歴史、文化、地域に根ざした行事及び生活習慣など、世界に誇る伝統が世代を超えて受け継がれています。

【世界を変えるイノベーションの渦が巻き起こっている】

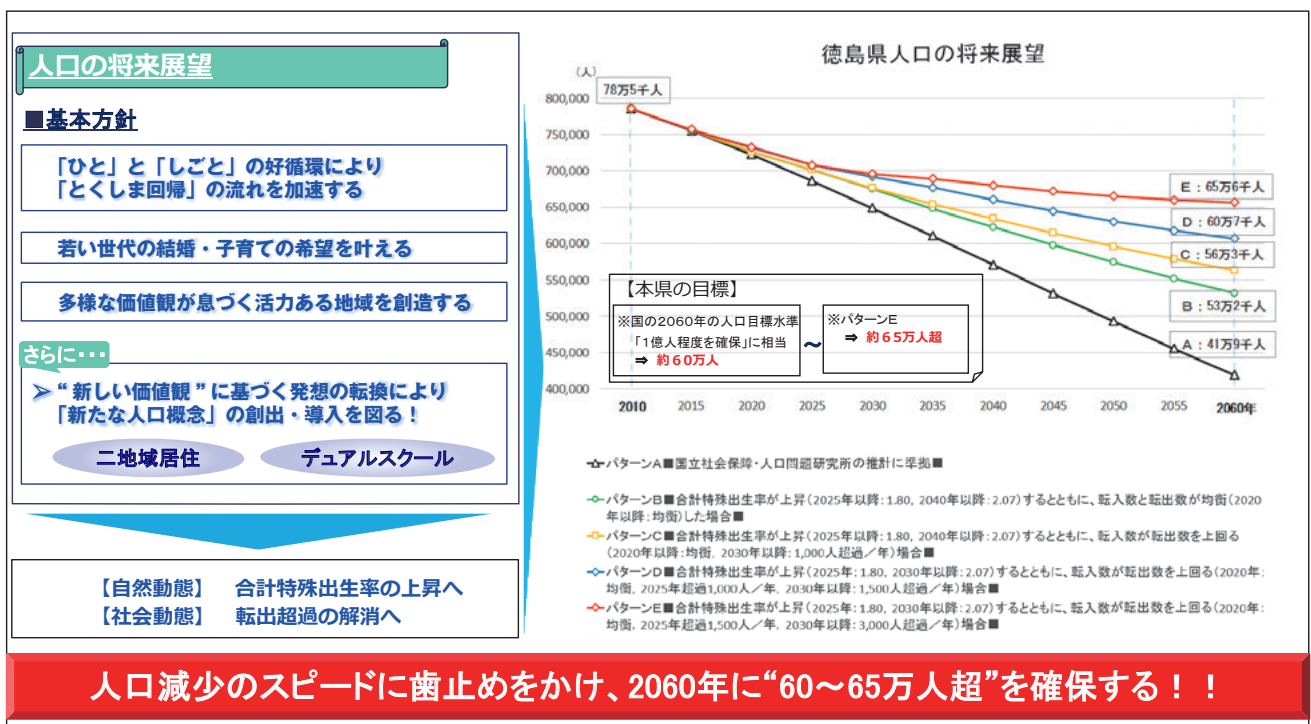
- ・世界最先端のイノベーション創出環境のもと、産・学・民・官の叡智を結集して「新たな価値」を産業化することにより人類が直面する課題を次々に解決しており、徳島から世界を変えるイノベーションの渦が巻き起こっています。

【TOKUSHIMAが世界のスタンダードに躍進している】

- ・世界から注目されている「あわ文化」は、多様な担い手により、阿波おどりや人形浄瑠璃など、先人から受け継いできた貴重な財産と様々な文化や価値観との融合が図られ、「新たな価値」を創造しながら進化し続けています。
- ・多くの子どもたちが、「あわ文化」をはじめとする国内外の一流の文化芸術に直に触れながら豊かな心と感性を育み、「ふるさと徳島」への誇りを胸に多くのアーティストが世界を舞台に活躍しています。
- ・徳島が誇る世界の強豪「ヴォルティス」と「インディゴソックス」は、多くの日本代表選手やプロ野球選手を輩出し、世界中の子どもたちの憧れの存在となっています。
- ・青少年が様々な競技種目の国際大会を間近に体感できるといった恵まれた環境の中で、夢や高いモチベーションを抱きながら指導を受けることにより、徳島から多くのトップアスリートが世界に羽ばたいています。
- ・誰もが、「いつでも、どこでも、いつまでも」芸術や文化、スポーツを楽しみながら、いきいきと元気に暮らしています。
- ・「新たな価値」の創造・発信により、世界の発展に貢献し続けている“世界のクリエイティブセンターTOKUSHIMA”を目指して、世界中から多くの人々が仕事や留学などで集っており、身近にいる外国人とも幼少期から交流して多様性を理解し、人間性が豊かになっています。
- ・「四国8の字ネットワーク[※]」や四国新幹線など、災害時のリダンダンシー[※]の確保にも寄与する高速交通ネットワークが整備されており、機能が強化された空港・港湾や公共交通機関とも連絡し、国内はもとより世界との交流が飛躍的に拡大しています。
- ・我が国が誇る世界遺産である「四国八十八箇所霊場と遍路道」での心のこもった「おもてなし」や、世界中から多くの人々が集い、にぎわいを見せる「鳴門の渦潮」をはじめ、伝統や文化、自然、産業などあらゆる分野で洗練された宝が地域の魅力として輝きを放っており、世界中から「徳島らしさ」を求める旅行者を惹きつけ、リピーターを増やしています。

- ・ユニバーサルデザインの考え方やICTの恩恵が浸透した地域社会では、子どもから高齢者まで県民誰もがいきいきと活動し、安全・安心で快適・便利な暮らしを送っています。
- ・差別とは無縁の人間らしい生活を送ることができる経済・社会のあり方は、“ダイバーシティ[※] TOKUSHIMA”として世界のスタンダードに躍進しており、世界中の人々を惹きつけ、「TOKUSHIMAに生まれてよかった、来てよかった、住んでよかった」と実感しながら生活しています。
- ・「人口減少社会」を正面から受け止め、“県を挙げて”「人口減少の克服」と「東京一極集中の是正」に取り組み、2060年に本県の人口“60万～65万人超”を確保しています。

「とくしま人口ビジョン」



(出典) 徳島県「とくしま人口ビジョン」